

汽水域研究会 NEWS LETTER

第15回秋田大会について

汽水域研究会2024年（第16回）秋田大会のご案内

汽水域研究会秋田大会は、2024年10月26日（土）・27日（日）に開催いたします。本大会は、汽水域をはじめ湖沼の生態系や物質循環を考えることがテーマです。初日は、バスチャーターにより、八郎潟や男鹿半島（一ノ目潟、安田海岸など）においてエクスカージョンを行います。二日目は、秋田大学鉱業博物館にて、シンポジウム「秋田県の湖沼と生態系・物質循環」を開催します。なお、一般発表についてはポスター発表のみとなります。

みなさまの奮ってのご参加をお待ちしております。

（事務局長：瀬戸浩二、大会幹事：安藤 卓人）

【開催テーマ】

湖沼の生態系と物質循環

【内容】

エクスカージョン、シンポジウム、一般ポスター発表 等

【日時／場所】

2024年10月26日・27日 秋田大学生 国際資源学部（秋田県秋田市）

26日 10-17時：エクスカージョン

27日 9-12時：シンポジウム「秋田県の湖沼と生態系・物質循環」

（世話人：安藤 卓人）

13-15時：一般ポスター発表

【参加申込締切】 10月4日（金） 詳細は[汽水域研究会HP](#)まで

【主催・共催】

主催：汽水域研究会

共催：島根大学エスチュアリー研究センター

秋田大学 国際資源学部

協力：秋田県立大学



←大会の詳細
申込方法
こちらをチェック

秋田大会のみどころ

秋田大学の安藤卓人です。今年度から、大会幹事をしております。さて、今年度の汽水域研究会は秋田で開催することになりました。研究会メンバーの多くがいる島根大学からはアクセスしにくい場所ではあり、10月末の秋田は冬も近づき朝晩は少し寒いですが、同じ日本海側として似ているところと似ていないところを肌で感じてもらえれば幸いです。秋田にはかつて最大の汽水湖であった八郎潟のみならず、男鹿国立公園などの雄大な自然があります。

大会1日目のエクスカージョンでは、秋田駅を出発し、新旧のエネルギー利用として、秋田市内の油田地域を抜け、洋上を含む風力発電が並ぶ海岸線を進み、干拓された八郎潟および八郎湖に向かいます。博物館にて干拓の歴史を学び、展望台から防潮水門を眺めたあとは、数十万年前の汽水域の地層が確認される安田海岸に向かいます。安田海岸では汽水域に特徴的な堆積構造を観察しつつ、垂炭層や化石を探することもできます。その後は、八望台にて日本でも希少なマール湖群である男鹿目潟火山群を眺望し、私たちの研究室で行なっている一ノ目潟での観測と年縞の研究について少しお話できればと思います。最後に、男鹿半島を半時計回りでぐるりとまわりながらバスの外の地層をみつつ、日本海拡大から現在の男鹿半島にいたる2千万年の歴史を岩相変化から解説しながら、秋田市へと戻っていく予定です。エクスカージョン後には久々の対面開催となる懇親会が予定されております。秋田の美味しい郷土料理や海の幸・山の幸をご堪能ください。

大会2日目は、我が大学が誇る鉱業博物館にてシンポジウムとポスターセッション、および総会を開催いたします。大会中は展示をみることができますので、秋田県内のみならず世界中から集められた鉱物試料をぜひみにいってみてください。シンポジウムは「秋田県の湖沼と生態系・物質循環」と題して、秋田大学と秋田県立大学の先生方から、秋田の湖沼や生物について学ぶ機会といたしました。幅広い専門分野ではありますが、自分にかかわる内容もあると思いますので、特に学生の方々には学びが多いと期待しております。ポスターセッションでは、活発なご議論よろしく願いいたします。総会を終えて秋田をたつ頃には名残惜しさを感じてもらえるくらいに充実した大会を開催できるようにいたします。

それでは、皆様のご参加・ご発表をぜひお待ちしております！



写真1: 八郎湖の防潮水門



写真2: 一ノ目潟

LAGUNA（汽水域研究）をJ-stageで読むことができます！

2024年4月1日より当研究会誌である「LAGUNA（汽水域研究）」に掲載された論文をJ-stage上で確認することが可能になりました。J-stageは国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する国内最大の電子ジャーナルプラットフォームで、2024年現在において4,000誌以上の雑誌が公開されています。前編集委員長である作野先生を中心とした編集委員会の努力の元に2023年8月4日に「LAGUNA（汽水域研究）」はJ-stageの登録しとして採択され（採択までの経緯については前News Letterの記事を参照ください）、2024年4月1日から無事J-stageで公開されることになりました。

さて、J-stageで公開されるとどのような利点があるのでしょうか。まず第1に、「LAGUNA（汽水域研究）」に掲載されたすべての論文に論文識別コードであるDOI（Digital Object Identifier）が付与され、DOIを用いた論文検索が可能になります。国内最大の論文プラットフォームへの掲載とDOIの付与により、第2の利点として論文閲覧数の大幅な増加が見込めます。今回は実際にどの程度論文の閲覧があったのか、数字を交えて紹介したいと思います。

2024年8月31日まで、即ち4月1日の公開開始からの5か月間の論文PDFの総閲覧数はなんと「2542」回となっています。論文要旨のある書誌情報の閲覧数は「4811」回です。現在J-stage上の「LAGUNA（汽水域研究）」の論文数は69本ですので、論文1本あたり平均約37回のPDF閲覧があることになります。「LAGUNA（汽水域研究）」の論文を多くの科学者が目にしていることが分かります。興味深いことに「LAGUNA（汽水域研究）」の論文PDFを閲覧している方々の内、日本国内からアクセスは全アクセス数の4割程度しかなく、残る6割は海外からの閲覧になっています。海外からの閲覧が最も多い国はアメリカで全体の約3割を占めます。アメリカの次に多い国がシンガポールで、閲覧数が多い国・地域から順にインド・香港・台湾・カナダ・フランスおよびドイツ（同数）と続き、全体で世界33か国からの閲覧があったようです。如何でしょうか？皆様の想像より多数の国と地域から多くの閲覧があったのではないのでしょうか。

近年の研究社会では、論文雑誌の格が重要視され、国内誌の論文は国際誌に掲載された論文と比較すると低い評価を受けがちです。しかしながら、論文の閲覧数が示す通り国内誌である「LAGUNA（汽水域研究）」は国際社会において広く興味を持たれています。今後も「LAGUNA（汽水域研究）」を盛り立て、国内誌の重要性を示すためにも、皆様の「LAGUNA（汽水域研究）」への多くの論文の投稿をお待ちしております。

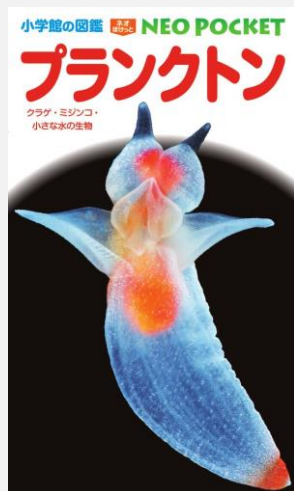
（編集幹事：香月興太）



←こちらからご覧いただけます

書籍紹介

タイトル：プランクトン
クラゲ・ミジンコ・小さな水の生物
(小学館の図鑑NEO POCKET)
著者：山崎博史, 仲村康秀, 田中隼人
出版社：小学館、定価：1,100円
発売年：2024年
ISBN：978-4092172975
中身のポイント：この図鑑は、子ども向けに約500種のプランクトンを紹介する初のポケットサイズ図鑑であり、美しい写真とともに、身近な水辺から極地まで、さまざまな環境に存在するプランクトンの姿を楽しめます。



関連学会(大会)紹介

◆日本陸水学会第87回大会

会期：2024年10月18日～20日 3日間
形式：現地対面
会場：熊本大学
詳細：https://www.jslim.jp/?page_id=20

◆日本水環境学会第59回年会

会期：2025年3月17日～19日 3日間
形式：現地対面
会場：北海道大学
詳細：<https://www.jswe.or.jp/>

エッセイ

潮汐から哲学まで

潮汐の研究を進めていく中で、太陽、地球、月といった宇宙の影響を考えざるを得なくなります。そのたびに、人間は宇宙のほんの一点に過ぎず、ちっぽけな出来事に悩んでいる自分が情けなく感じることもありました。そんな日々の中で、最近私は宗教や哲学、心理学に興味を持ち、さまざまな本を手取るようになりました。科学者として宇宙の果てや生命の起源に思いを馳せると、不可知論に共鳴する瞬間が増えてきました。不可知論とは、いくつかの命題（主に神の存在に関する神学的命題）の真偽を知ることができないという哲学的観点、または物事の本質は人間にとって認識不可能であるという考え方です。同様に、宇宙の終焉があることは知っていますが、今の科学技術ではその果てを測ることはできません。つまり、科学は証拠を重視しますが、答えの见えない問いを追い求めることには、宗教や哲学と不思議な共通点があると感じます。異なる分野が交わる場所にこそ、私たちの思考が豊かになる余地があると思います。同様に、汽水域の研究においても、さまざまな環境が混ざる場所での調和が重要であることを実感しています。科学者として、科学の発展だけでなく、人間性や社会との調和も大切にしたいと考えています。だからこそ、お互いに配慮しながら、楽しく研究や日常を続けることが重要だと思っています。私たちの探求が、より深い理解や共感を生むことを願っています。

(情報幹事 金 相嘩)



会員数 (2024年9月30日)

正会員：80名(+1)、賛助会員：4名(-1)、
学生会員：41名(-1)、計：125名
#カッコ内は2024年3月31日からの増減を示す



編集後記

LAGUNA (汽水域研究) のJ-stage登録作業に参加させていただき、編集長をはじめ関係者の皆様のご尽力を間近で拝見いたしました。誠に疲れ様でございました。今後とも、皆様のLAGUNAへのご投稿をどうぞよろしくお願い申し上げます。(金)

汽水域研究会ニュースレター第28号 2024年9月30日発行 編集・発行：汽水域研究会

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060島根大学エスチュアリー研究センター内 汽水域研究会事務局

Office. rgbwa@gmail.com 0852-32-6450 (phone&fax)